

埼玉県 MINJIKYO DAYORI 民児協だより



令和2年2月1日発行
No.163



幸せを呼ぶ直紀の世界 「東武動物公園のメリーゴーランド（宮代町）」 画：飯野 直紀

宮代町にある東武動物公園のメリーゴーランドは、とても美しく夕方から夜にかけて、湖面に映る姿はロマンティックです。

目次	令和2年知事年頭挨拶	2
	令和2年会長年頭挨拶	3
	県民児協役員紹介	4
	民生委員・児童委員委嘱状伝達式 開催報告	5
	令和元年度「主任児童委員セミナー」開催報告	6-7
	全国研修会参加報告(相談技法研修会／リーダー研修会) 令和元年度栄典及び各種表彰受章者等の紹介	8-9
	わがまちの単位民児協活動紹介ルポ(杉戸町・入間市)	10-11
	民生委員・児童委員の声(東秩父村)、県民児協の3カ月の予定	12

埼玉県民児協だよりでは、「民生委員及び児童委員」を「民生委員」と、「民生委員・児童委員協議会」を「民児協」と表記しています。



この広報紙は、共同募金の配分金により発行されています。

日本一暮らしやすい 埼玉県に向けた挑戦



埼玉県知事 大野元裕

明けましておめでとうございます。民生委員・児童委員の皆様には、健やかに令和2年の新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

今年はいよいよ東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、本県でもバスケットボール、サッカー、ゴルフ、射撃、パラリンピック射撃の5競技が実施されます。県民の皆様とともに大会を成功させ本県を更に盛り上げてまいります。

さて、本県も間もなく人口減少社会へ突入します。全国一の速さで後期高齢者人口が増加する一方、生産年齢人口の減少が進みます。こうした中、「日本一暮らしやすい埼玉県」を目指し、果敢に挑戦します。

そのカギとなるのが、技術革新、グローバル化、そしてシニア・女性の活躍です。

人口減少社会の中でも成長していくためには、Society5.0へ向けた対応が不可欠です。

「埼玉版スーパー・シティ」構想により、AI・IoT、5G等を活用し、エネルギーの効率的な利活用を中心に、職住近接による子育て環境の向上、高齢者の見守りなど、様々な課題の解決を目指します。

グローバル化の進展により、本県の在留外国人数の増加も見込まれます。グローバル人材の育成を進めるとともに、異なる文化や価値観を認め合う多文化共生社会の実現に努めてまいります。

渋沢翁は「四十、五十は^{はなた}淡垂れ小僧、六十、七十は働き盛り、九十になって迎えが来たら百まで待てと追い返せ」と説きました。生涯を通じて生き生きと活躍できる人生を送るためにも健康は最も重要です。スポーツを通じた健康増進により、健康寿命を延ばし、生涯現役社会の実現を図ってまいります。

女性の活躍の場を広げる必要があります。女性の活躍は、多様性や新たな価値を生み出す大きなチャンスとなります。働きたいと考える女性に寄り添い、再就職やキャリアアップに向けた支援に力を入れて取り組みます。

「日本一暮らしやすい埼玉県」は「埼玉版SDGsの実現」でもあります。誰一人取り残さない持続可能な埼玉を目指し、県民の皆様と「ワンチーム埼玉」でチャレンジしてまいります。

共生社会の実現を目指して



一般財団法人埼玉県民生委員・児童委員協議会 会長 大谷 富夫

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。

埼玉県民生委員・児童委員、主任児童委員の皆様には、ご健勝にて令和の新たなる年を迎えられ、心よりお慶びを申し上げます。

平素より地域福祉の増進に深いご理解とご協力を賜り、先ず以って御礼を申し上げます。

昨年は任期満了に伴う一斉改選もあり、埼玉県民児協丸も新たなる航海に向け各市町村民児協丸と船団を組み、新たに着任いただきました委員も乗船し出航したところでございます。

今期3年も「地域版活動強化方策」を組み込んだ中での活動をお願いするにあたり、ご理解とご協力を賜るとともに、合わせて旧来の委員の皆様にはすでにご承知いただいておりますが、「生活支援体制整備事業」の第2層協議体が目指す地域像とも重なりますのでよりしくお願いいたします。

第2層協議体には多くの民生委員・児童委員も名を連ね、活躍中とは思いますが、地域診断による新たな発見や気づきが事業にも反映され、そのことが強化方策にも反映されてまいります。

昨年の台風19号の襲来もまだ記憶に新しいところではございますが、災害に対する地域の絆を改めて考え直す機会になったのではないのでしょうか。災害時要支援者に対する対応が地域マニュアルに沿った委員活動になりましたでしょうか。

地域版活動強化方策とは、地域の人たちとともに考え行動し、地域共生を促すことやお手伝いすること、その為になどのように行動するかを考えることも強化方策、さらに委員同士での話し合いも方策になります。それらの行動にかかる中で出てきた結果を集計し、次に繋げていけるのも民生委員・児童委員です。地域に根ざしているからこそ、その強みが発揮されます。

国連でも採択された「持続可能な開発目標」いわゆる「SDGs」ですが、福祉に関するSDGsの考えに一番近い実働隊も民生委員・児童委員です。今後ますます重要な立ち位置になっていくでしょう。

世界に類を見ないこの組織は日本文化とも相まって、超高齢社会という未知のゾーンへ向かって飽く無き挑戦とそれに次ぐ感動を生みだし、さらに地域、施設、企業、行政等をも巻き込みながら新たな発見と挑戦を続けて行くことでしょう。

今年は埼玉県民生委員・児童委員協議会も機構を刷新し、時代に即応できる体制を整えるべく、県内委員のご意見を頂戴しながら一年をかけて準備していきたいと思っております。

結びに、今年一年、市町村民生委員・児童委員協議会の益々のご発展と集う委員お一人おひとりのご健康とご活躍を心からご祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

県民児協役員紹介

令和2年1月24日（金）に開催された第153回評議員会及び第157回理事会において、次の役員が補充選任されました。
—敬称略—

副会長(理事)



蓮田市
大野 禮子



川越市
芝波田 静香



川口市
大谷 富夫



志木市
吉田 豊子



熊谷市
寺田 治子

会長(理事)

副会長(理事)

東部ブロック

■理事

草加市 渡邊 幸司
八潮市 篠木 猛

■監事

羽生市 鈴木 康夫

■評議員

加須市 尾高 幸江
春日部市 鈴木 浩子
越谷市 齊藤 峰雄
久喜市 長谷川 朱實
三郷市 志子田 健一
幸手市 倉持 昭夫
吉川市 鈴木 庄次
白岡市 矢島 静江
宮代町 根岸 博美
杉戸町 大橋 登喜夫
松伏町 今井 しげ子

西部ブロック

■理事

狭山市 藤野 美佐子
三芳町 三瓶 スミ子

■監事

坂戸市 佐藤 和恵

■評議員

所沢市 橋爪 猛
飯能市 野口 博巳
東松山市 金杉 明
入間市 臼井 秀
富士見市 關 知枝
鶴ヶ島市 武田 和子
日高市 北田 文子
ふじみ野市 風間 和江
毛呂山町 森澤 美智子
越生町 宮崎 勝一郎
滑川町 檀原 美明
嵐山町 青木 裕子
小川町 小川 新一
川島町 中島 好則
吉見町 塩浦 貞朗
鳩山町 矢野 幹夫
ときがわ町 坂下 浩
東秩父村 鈴木 洋三

南部ブロック

■理事

上尾市 鮫嶋 紀子
戸田市 磯部 恒子
北本市 岡野 貞子

■監事

伊奈町 加藤 衛

■評議員

川口市 厚川 葉子
鴻巣市 酒巻 喜久子
蕨市 佐藤 政美
朝霞市 土佐 隆子
和光市 富澤 幸男
新座市 丸山 トモ子
桶川市 中村 文雄

北部ブロック

■理事

秩父市 宮下 昭
深谷市 河田 英雄

■評議員

行田市 小林 定春
本庄市 茂木 秀夫
横瀬町 坂本 光雄
皆野町 久保田 順一
長瀨町 染野 操
小鹿野町 多比良 キヨ子
美里町 森田 實
神川町 木村 葉子
上里町 岩田 義典
寄居町 麥屋 英雄



※理事・監事・評議員の任期は、令和2年5月の定時評議員会終結のときまでです。

民生委員・児童委員委嘱状伝達式 開催報告

令和元年12月2日（月）、「令和元年度民生委員・児童委員委嘱状伝達式」が
埼玉県県民健康センターにおいて開催されました。

◆委嘱状の伝達

各市町村民生委員代表者が出席し、大野元裕埼玉県知事より、厚生労働大臣委嘱状及び知事委嘱状が交付されました。



大野県知事より委嘱状の伝達交付

◆主催者挨拶



大野県知事挨拶

大野埼玉県知事より「このたび、民生委員をお引き受けくださいました皆様には、改めて心から感謝の意を表します。」

これからの3年間、本県の地域福祉の重要な担い手として御尽力を賜りますよう、お願い申し上げます。

本県の偉人である渋沢栄一翁は、日本近代経済の祖であります。児童福祉施設や病院など、600以上

もの社会福祉事業に熱心に取り組まれています。

昭和6年には、民生委員の前身である方面委員の全国組織「全日本方面委員連盟」の初代会長に就任され、民生委員制度の発展に大きな力を尽くされました。

また、渋沢翁は優れた思想家であり、社会正義や倫理の必要性を強く説かれており、それは今日の我々の生き方にも大きく通じる場所があると考えております。

経済、人口ともに右肩上がりを続けてきた本県も、これまで経験したことのない人口減少社会に突入します。経済活動や社会活動のみならず、社会や共同体のあり方が問われている現在、私は、国連が提唱する『SDGs（持続的発展社会）』の精神こそ、渋沢翁の主張そのものであると考えております。地域社会でのさまざまな課題を解決するため、私はこの『SDGs』の精神を踏まえ、日本一暮らしやすい埼玉県の実現に取り組んでいくところでございます。

そのためには、渋沢翁の思想、あるいはDNAを受け継いだ民生委員の皆様のお力添えが、確実に必要となつてまいります。ぜひとも、日本、そして埼玉県の明るい未来を子どもたちに届けるために、皆様のお力をお借りしたいと思っております。」と挨拶がありました。

◆来賓

来賓には、石木戸道也埼玉県町村会会長及び大谷富夫埼玉県民児協会長が出席されました。



来賓
県町村会 石木戸会長（写真中央）
県民児協 大谷会長（写真左）

◆代表民生委員挨拶

民生委員を代表して、寺田治子熊谷市民児協会長より謝辞があり、「近年、地域社会や家族の絆が薄れている中で、地域福祉の重要性が大きくなっています。民生委員としての使命の重さを感じるとともに、微力ながらも地域福祉を担う一員として、その責務を果たしていきたい。」と述べられました。



代表者謝辞
熊谷市民児協 寺田会長

一斉改選における県内の状況

◆埼玉県定数（さいたま市除く）

・民生委員……………8890名

・主任児童委員……………718名

計9608名

◆男女別委嘱者数

・民生委員

男性……………2875名

女性……………5425名

・主任児童委員

男性……………48名

女性……………634名

◆新任・再任委嘱者数

・民生委員

新任……………2891名

再任……………5409名

・主任児童委員

新任……………226名

再任……………456名

令和元年度 主任児童委員セミナー 開催報告

令和元年10月25日（金）、彩の国すこやかプラザ「セミナーホール」において、県内の各市町村主任児童委員代表、又は副代表の85名が参加し、「令和元年度 主任児童委員セミナー」を開催しました。

このセミナーは、本会主任児童委員会において企画・運営を行っており、今年度は、「発達障害について学ぶ」をテーマに掲げ、発達障害児・者やその家族（保護者）への寄り添い方や支援方法について理解を深め、各地域における日頃の委員活動の一層の推進を図ることを目的に開催しました。

講義

「発達障害児・者および家族への寄り添い方、支援方法について」

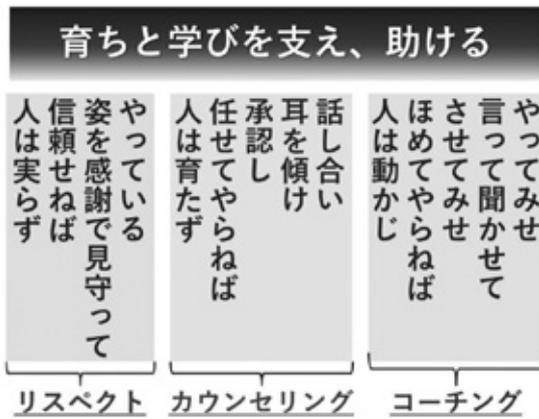


《講師》

立教大学 現代心理学部 心理学科
教授 大石 幸二氏

人を育てるといって

日本人はかつて、「意図を酌み、心で心の声を聴く」ことを得意としました。しかし、最近では「見て分かる結果」ばかりに注目してしまい、子どもに対し「なぜ靴が揃えられないの」、「先に宿題を終わらせなさい」といっても言っているでしよ」というような声のかけ方をしてしまいます。「今からやるうとしていたのかな」、「他のこと優先してしまったんだね、大丈夫だ



山本五十六の言葉

よ」という声かけは、あまりしていません。特に都市部ではこのような親子関係の傾向が多くみられ、これは子育てがうまくいかない家庭だけの問題ではないと私は考えています。「柔らかに」人と向き合う中で、発達障の偏りや学びのつまずきの問題を考えたいかなければなりません。そんなとき、最後はきちんと褒めて終わらせることが重要です。時間に追われていることは一旦置いておいて、覚悟を決めて子どもと向き合うことが大切です。

地域社会全体での子育て

皆様が地域で活動する中で、親御さんがきちんと子どもに向き合ってくれたらいいな、と思うことがあると思います。厚生労働省の調査によると、親が子どもと1日に向き合っている平均時間は、19.2分という結果が出ています。これはとても深刻な状況であり、隣近所との付き合いになると、1日平均3分40秒という結果が出ています。これが、現在の日本の実態です。

この結果を前提として、私は「社会的養護」の時代において、親が一人で子育てをするのではなく、地域社会全

体で子どもを可愛がり、育てていく文化の醸成にもう一度取り組んでいくことが重要であると考えています。その中で、個性が溢れる子どもたちも巻き込みながら、さまざまな取り組みをしていくことが必要です。

保護者への声かけ

「うちの子、育てにくくて」、「なかなか子どもに指示がとおらなくて」といった相談を親御さんから受けた場合、まず私たちは「あなたがお子さんの育ちに対し、『大丈夫かな』という気持ちを持っていること自体、お子さんに関心が注がれているということであり、それは非常に大きな価値があることです」とお伝えすることができ、愛情を注がれていることを子どもにも実感させるためには、「今の私の子育てには、こんな点に良い所がある」ということを、まずは親御さん自身に実感していただく必要があります。



通級指導教室とは

社会生活技術(ソーシャルスキル)には、「行動面」と「対人関係面」の2つの側面があります。特に、対人関係について気にされる親御さんが多いと思いますが、行動の調節や安定、気持ちを整える面と、コミュニケーションや人付き合いのコツを扱い、自立を促すことを目的とした「通級指導教室」が学校に設置されており、無料で支援を受けることができます。通級指導教室は小・中学校だけでなく、最近では県立高校にも設置されており、大人になるにつれて要求される「社会人基礎力」を培う支援を受けることができます。

グループ討議

「家族(保護者)への寄り添い方、支援方法について」

講義の内容を踏まえ、発達に疑いのある小学生の子どもを持つ母親(保護



グループ討議

者)への支援に関する架空事例をもとに、グループ討議を行いました。



グループ討議

グループ発表

各地域の活動について情報交換をしながらグループ討議が行われ、さまざまな意見を発表していただきました。



発表

- ・子どもの持つ強みや良い所を褒めて母親の不安を取り除く。
- ・子どもの特性に合った専門的なサービスマスを利用し、家族と学校が共通理解をすることが大切だと思う。そのため、私たちも地域の福祉資源を探して家族に提案していきたい。
- ・母親の気持ちに寄り添って、ねざらうことが私たち主任児童委員の役目であると思う。

まとめ

ある家庭に関わったとき、親御さんに「先生にとっては自分の子どもでもないのに、なぜそんなに私たちに親身になれるのですか」と聞かれたことがあります。私は「他人であるからこそ、冷静に話が聞けるからです」と答えました。これは、日頃からさまざまな支援活動に携わる委員の皆様も同じだと思います。

グループ発表の中で、「第三者からのねざらい」という提案が出たことは、親御さんの不安を考えると、とても価値のあることだと私は思います。親御さんに対し、「自分一人ではない」と感じてもらうことは非常に大切なことです。孤立は、神経毒として体や心に悪影響を及ぼします。そんなときに、ありのままを丸ごと受け入れてくれて、耳を傾けてくれる存在があると、親御さんにとって大きな力になります。このようなとき、民生委員、主任児童委員の皆様には見守り役になっていただけるのではないかと思います。



そして、皆様の発表を聞いて、私自身も「沁みるような付き合い方」を追及していきたいと思いました。

子どもには子どもの生き様があり、大人には大人の生き様があります。それをきちんと受け止めて、一緒に歩んでいくことができるのは、「地域でもに暮らす誰か」であるのではないかと思います。祖父母が近くに生まれ、実父実母との関係が苦しかった親御さんの話を聞くと、そうだったときにこそ、同じ地域で暮らす民生委員、主任児童委員の皆様が存在が、非常に大きな役割を担うのではないかと私は思います。

今回のセミナーをおして感じたこと、学んだことを、日頃の相談支援活動や、地域住民との関わりあいの中で活かしていただけたらと思います。



参加報告

令和元年度「相談技法研修会」

令和元年8月27日(火)～28日(水)、神奈川県横浜市「新横浜プリンスホテル」において標記研修会が開催され、全国から137名が参加し、本県からは4名の委員が参加しました。

本研修会は、民生委員活動の基本となる相談援助について、事例を交えながらの講義・演習（ロールプレイ等）を通して、他者理解、援助者としての態度・行動、コミュニケーション、傾聴等の考え方や方法を学習し、理解を深めることを目的として開催されました。

◆ 日 程 ◆

1日目【講義 1】「相談援助の視点と態度」

【演習 1（ビデオ学習）】

「訪問活動・相談支援の基本的なポイント」

元・梅花女子大学 准教授 植田 寿之 氏

2日目【講義 2】「相談援助の原点と本質」

【演習 2】「傾聴の基本」

【講義 3】「相談面接技法」

【演習3（ロールプレイ）】「相談面接の実際」

【講義 4】「振り返りとまとめ」

元・梅花女子大学 准教授 植田 寿之 氏



<参加者の声>

【講義について】

人それぞれが抱える悩みの原因はさまざまであり、相談援助にあたり応談するときは、相談者の相談に係る背景をつかむことが大切だと感じました。

また、相談援助にあたり、言語と非言語の割合は3対7くらいが良いということを学びました。共感を得るためには、相談者の言葉を繰り返す、言い換える、要約する技法を取り入れることが重要です。

【演習について】

当たり前のことであるが、普段の日常生活の中で、何気ない「あいさつ」の大切さ、特にコミュニケーション作りは基本中の基本であることを痛感しました。

面接時の座席については、正面に向き合う「相対」、テーブルの角を挟んで座る「斜め」、カウンターに並んで座るような「横並び」の3つの方法を体験した結果、「横並び」が相談時にお互い話がしやすく、ベストだということ学びました。
(前 越谷市民児協 会長 白倉 誉治 氏)

令和元年度 栄典及び各種 表彰受章者等の紹介 (敬称略)

春秋叙勲受章者

瑞宝双光章

【総務省行政事務功労】(春)
狭山市 渡部 克矩

瑞宝単光章

【民生委員功労】
さいたま市 大川 野美子(春)
川口市 北原 伸泰(秋)

春秋褒章受章者

藍綬褒章

【民生委員功労】
川島町 亀田 緑(春)
久喜市 長谷川 朱 實(秋)

【統計調査功労】(春)

川口市 大久保 君 枝

【更生保護功労】(春)

草加市 席 溪 文 有

危険業務従事者叙勲

瑞宝小綬章

【防衛功労】(春)
加須市 石井 克 巳

全国研修会

令和元年度「リーダー研修会」

令和元年9月2日(月)～4日(水)、神奈川県横浜市「新横浜プリンスホテル」において標記研修会が開催され、全国から156名が参加し、本県からは2名の委員が参加しました。

平成29年に民生委員制度創設100周年を迎えたことを受け、全民児連では「民生委員制度創設100周年活動強化方策」を策定し、さらに地域の実情を踏まえた「地域版活動強化方策」の作成を呼びかけています。本研修会は、地域版活動強化方策の作成に向け、地域の実情把握を進め、そこで生じている課題を整理し、課題解決に向けて民児協活動をどう推進していくのかを学ぶことを目的に開催されました。

◆ 日程 ◆

- 1 日目 【行政説明】「地域共生社会の推進と民生委員・児童委員への期待」
厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課
地域共生社会推進室 地域福祉専門官 玉置 隼人 氏
- 【基調報告】『100周年活動強化方策』と『地域版活動強化方策』作成のねらい
全国民生委員児童委員連合会 副会長 藤目 真皓 氏
- 【講義 1】『100周年活動強化方策』推進の状況と全民児連事業について
全国社会福祉協議会 民生部 部長 佐甲 学 氏
- 【講義 2】人権学習「子どもの人権課題への理解を深める」
東洋大学 助教 泉谷 朋子 氏
- 2 日目 【講義 3】グループ討議「地域版活動強化方策の作成に向けて」
高崎健康福祉大学 教授 金井 敏 氏
- 3 日目
グループ討議振り返り・まとめ
高崎健康福祉大学 教授 金井 敏 氏



<参加者の声>

今回の研修では、地域事情の異なるさまざまな地域の民生委員で地域版活動強化方策の作成を行ったため、地域性がなく課題をまとめるのが大変でした。本来の単位民児協であれば、共通する課題や悩みも多いと思います。ワークシートAを人数分コピーし、各民生委員に配布することから始めてほしいとのことでした。

(北本市民児協 岩本 三枝子 氏)

地域版活動強化方策の作成について、グループ討議を行うまでは難しくて面倒だなと考えていましたが、実際に話し合いの中からはいろいろな課題が見つかり、大変有意義であることが理解できました。

(新座市民児協 関根 由美子 氏)

1日から現在に至る」
植栽の手入れ活動／平成10年4月
委員協議会
「市内小中学校での営農指導と
新座市西部地区民生委員・児童

【民生委員優良活動団体表彰】

- 【民生委員功労】
- 加須市 大塚 裕
- 狭山市 藤野 美佐子
- 深谷市 宮野 典子
- 朝霞市 榑 芳博
- 北本市 鈴木 栄子
- 蓮田市 下田 ナカ子
- 川越市 松本 道子
- 川越市 宗像 ヤイ子
- 西浦 浩美
- 平岡 平 仁
- 中山 和子
- 越谷市 山中 翠子
- 越谷市 小山 益子
- さいたま市 吉岡 明美
- さいたま市 吉岡 明美
- さいたま市 吉岡 明美

厚生労働大臣表彰

- 【警察功労】
- 瑞宝单光章 (春)
- 【警察功労】
- 瑞宝双光章 (秋)
- 行田市 中村 賢三
- 鶴ヶ島市 長谷川 廣美
- 瑞宝单光章 (秋)
- 瑞宝双光章 (春)
- 瑞宝单光章 (秋)
- 瑞宝双光章 (春)
- 瑞宝单光章 (秋)
- 瑞宝双光章 (春)

杉戸町

地元地域の方がたとの交流

共生社会の実現に向けて

【杉戸町概要】

杉戸町は、埼玉県の東部に位置し、東京都心より北方40km圏内にあります。町の東西の両端を江戸川と大落古利根川が流れ、さらに、中川、安戸落水路、倉松川など、多数の河川・水路が地域内を流下し、水と緑に囲まれた田園風景が広がる町です。

現在杉戸町では、人口約4万5千人ですが、高齢化率が約31.9%と非常に高くなっており、今後さらに高齢化が進むことが懸念されます。

【杉戸町民児協の活動】

杉戸町民児協では、月1回の定例会や研修会などのほか、年1回の県外研修を実施しています。また、高齢者福祉部会、母子児童福祉部会、生活福祉部会、障がい者福祉部会、広報部会の5つの専門部会があり、それぞれの部会ごとに視察や研修を通じ、民生委員のスキルアップや民生委員同士の懇親を図っております。

【活動事例】

● キャンドルナイト

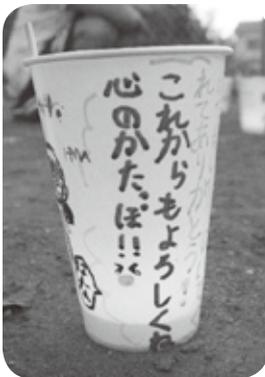
毎年、地域の障がい団体が中心となって、「地域の皆さまに感謝の気持ちを伝えること」「お互いを大切にすることを育て合うこと」をテーマに、地域の公園内で、キャンドルナイトを開催しています。このキャンドルナイトには、杉戸町の民生委員も参加し、一からキャンドルづくりをしたり、障がい者と一緒に

飾り付けなどを行っています。

こちらのキャンドルナイトの特徴は、感謝の気持ちを込めて、大切な人へのメッセージを書いた紙コップのキャンドルに火を灯しています。来場者には、キャンドルの明かりの中で、温かい気持ちを過抱きながらゆったりした時間を過

ごしていただく一役を担っています。

今後も、これらの活動を通じて、障がいがあるなしにかかわらず、お互いを大切にして、共に生き、共に成長できる共生社会の実現に向けた取り組みを続けていきたいと考えています。



メッセージ入り紙コップ



キャンドルづくり



令和元年5月25日開催



杉戸町民児協

民生委員

77名

主任児童委員

3名

わがまちの単位民

★金子地区紹介

入間市の西部に位置し、北には加治丘陵、南には狭山茶で有名なお茶畑が広がり、自然豊かな地域です。

長年この地に住んでいる人が多く、昔から「向こう3軒両隣り」の良いつながりがあります。また地区には小・中学校が各一校しかないので顔馴染みが多く、全体がまとまりのある地区です。



南に広がる茶畑

★近隣助け合い活動推進会

民生委員だけでは地域の見守りには限度があります。そこで平成12年に、自治会、民生委員、老人会、ボランティア、母子愛育会などの団体が協力して、「近隣助け合い活動推進会」が発足しました。

基本的には一人暮らしの高齢者の見守りですが、貧困や障がい者、それ以外の事についても、適宜・定期的に会合を開いて意見交換をしています。食べることに困り、「お金を貸して下さい」と頼まれたボランティアの人が、民生委員にその情報を入れてくれたお蔭で、地域包括支援センター、社会福祉協議会、市役所の担当部署が一致協力して救済した事例もあります。また、一人暮らしの高齢者のために配食も行っています。月一回ですが、ボランティアの方がお昼のお弁当を作り、これを民生委員が見守りを兼ねて届けています。お弁当を受け取った時の笑顔、民生委員とおしゃべりするのも楽しみにされているようです。

★バザー

毎年11月の初めに金子地区の文化祭が開催されます。金子地区民児協では、近隣助け合い活動推進会の一翼として、バザーを実施しています。

地区の方からご厚意で提供していただいた品物を売り、その売上を活動のために役立たせています。提供された品物の選別や値付けなど、時間もかかる大変な作業ですが、毎年楽しみに来てくださる方もいるので、全く苦になりません。バザーの売上金は、地区の敬老会の補助、配食のお弁当の材料費補助、長寿会憩いの家へ椅子を寄付するなど、有効に使われます。



バザー

★三世代交流事業

毎年12月に、衛生自治会が主催する「三世代交流事業」が行われます。

お年寄りから小さな子どもまで一堂に集い、工作やゲームなどを通して交流を深める催しです。

金子地区民児協は、毎年、粘土工作の場を提供しています。発想豊かな子どもたちが3色の紙粘土を使い、おばあちゃんのアドバイスを受けながら協力して作品を作っている様子は、とても微笑ましい光景です。



粘土工作

入間市

地域で支え合う

近隣助け合い活動推進会

入間市
金子地区民児協

民生委員
17名

主任児童委員
2名

「民生委員・児童委員の声」



東秩父村
民生委員・児童委員協議会

豊田 由夫氏
(平成25年12月1日委嘱)

「山越え谷越え」

埼玉県の中央からやや西寄り、山の始まりに私たちの県内唯一の「村」東秩父村があります。人口は2,700名余、高齢化率42%、小中学校各学年全て1クラスという、典型的な少子高齢化地域です。また一部の地区を除きほとんどが山間部ですが、四季折々の花や地区のお祭り、ユネスコ無形文化遺産に登録された「手漉き和紙技術」を育んだ清流など、「村」ならではの逸品が満載です。

そんな東秩父村の民生委員は19名、主任児童委員2名を合わせて21名で活動しています。高齢者の見守り活動はもとより、困り事相談、一泊の研修旅行、施設訪問、小中学校との連絡会、新年会など、各委員が和気あいあいと仲良く活動しています。山間部ゆえに活動には自動車が欠かせず、文字どおり山越え谷越えで奔走しています。

高齢者の家を訪問すると、お茶やお菓子、手造りの漬物などが出され、近況を聞くと近所の出来事や孫の話で盛り上がり、次の家の訪問時刻が気になるほどで、訪問者を心待ちにしているとのこと。

こういう中から他の高齢者の様子も聴け、私たちにとっては大変貴重な時間です。他の民児協で個人情報保護の問題等で活動に食い違いをきたしている昨今、地元の人と日常からコミュニケーションをはかり、地域の実情を把握できることが私たちの強みです。

3年前からは地域包括支援センターの指導により行政区長等と協力し、「健康体操」を各地区で立ち上げ、高齢者の体力維持に貢献するとともに、熱中症や振り込め詐欺等の注意喚起にも利用しています。

今後ますます高齢化が進み、見守り対象者が増加すると思われませんが、「田舎」の利を活かし行政や各委員と協力しながら、見守り対象者から喜ばれる活動をしていきたいと思っています。

令和2年 県民児協の予定

1月

9日	※新任民生委員研修(2日目)(C日程)	春日部市
15日	男女共同参画推進部会	すこやかプラザ
15日	男女共同参画推進部会選考委員会	すこやかプラザ
16日	主任児童委員会	すこやかプラザ
17日	※新任民生委員研修(2日目)(D日程)	秩父市
20日	さいたま市社会福祉大会	市民会館おおみや
23日	※新任民生委員研修(2日目)(E日程)	狭山市
24日	第153回評議員会	すこやかプラザ
24日	第157回理事会	すこやかプラザ
29日	※新任民生委員研修(2日目)(F日程)	川越市
31日	※単位民児協会会長研修	さいたま文化センター

2月

7日	※単位民児協副会長研修	大宮ソニックシティ
12~14日	全国民生委員指導者研修会(第29回民生委員大学)	神奈川県葉山町
26日	※主任児童委員研修A	すこやかプラザ
26日	生活福祉資金制度説明会	埼玉会館
27日	※主任児童委員研修B	さいたま市内
28日	民生児童委員・保護司連絡会及び合同研究協議会	すこやかプラザ

3月

4日	正副会長会議	すこやかプラザ
6日	男女共同参画推進セミナー	すこやかプラザ
27日	第158回理事会	すこやかプラザ
27日	第154回評議員会	すこやかプラザ

注)※の問い合わせ先は埼玉県社協研修課です。

「民生委員・児童委員の声」原稿募集中

—民生委員が日頃の活動の中で思ったこと、知って欲しいことなどを広く一般県民の方々に知ってもらうためのものです。
—会員の皆さん奮ってご投稿くださいますようお願いいたします。

※【民生委員・児童委員の声】募集要領

- 1 民生委員・児童委員活動に関することであれば内容は自由です。
- 2 原稿は、800字以内とする。
- 3 応募は1人1任期中1回限りとする。
- 4 掲載は毎月1人とし、投稿者氏名及び市町村名を掲載する。
- 5 発行月の2ヶ月前までにご応募いただいた原稿の中から、広報委員会にて選考のうえ掲載する。
なお、加筆・修正等をする場合があるので、住所・電話番号を必ず明記のうえご投稿ください。
- 6 投稿された原稿は返却しません。

提出先

〒330-0075
さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
彩の国すこやかプラザ
一般財団法人埼玉県
民生委員・児童委員協議会
広報係宛

編集後記

令和元年度の最終号であるNo.163号をお届けします。私にとりましても広報委員として携わらせていただく最終号となります。この三年間、男女共同参画推進部会員とともに広報委員としてたくさんのご経験させていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

今号は、民生委員の一斉改選後2ヶ月が過ぎたところで、県民児協の新役員も掲載されています。今後、少子高齢化がますます進み課題が増えていくなかで、各市町村民児協におかれましても、新しい役員さん方を中心に「ONE TEAM」でご活躍されますようお願いいたします。

(秩父市 高橋 幸太郎)